

年間授業計画

高等学校 令和8年度（1学年用） 教科

芸術 科目 音楽 I

教科：芸術

科目：音楽 I

単位数：2 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 4 組

教科担当者：（1組：高野）（2組：高野）（3組：高野）（4組：高野）

使用教科書：（教育出版社 音楽 I Tutti+（トゥッティプラス））

教科 芸術 の目標： 芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- 【知識及び技能】 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 音楽 I の目標： 音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
		歌	器	創						
1 学期	A表現 歌唱 混声合唱 【知識及び技能】 ソルフェージュの基礎 【思考力、判断力、表現力等】 楽典を生かした表現の工夫 【学びに向かう力、人間性等】 ソルフェージュによる主体的な活動	・親しみやすく発声に適した曲を使用し、曲想を考えた演奏を目指す。 ・グループ練習を中心とした主体的活動を行う。 ・模範の鑑賞を通し、より良い演奏のイメージを持つ	○		○	【知識及び技能】 曲にふさわしい発声・発音・身体の使い方を考え表現できる 【思考力、判断力、表現力等】 知識・技能を生かしイメージをもって歌唱表現の工夫ができる 【学びに向かう力、人間性等】 ソルフェージュによる主体的な活動ができる	○	○	○	7
	A表現 器楽 ギター基礎 【知識及び技能】 ギター構造・演奏の基礎 【思考力、判断力、表現力等】 知識や技能を生かした表現の工夫 【学びに向かう力、人間性等】 ペダルによる主体的な活動	・ギターの構造や基本奏法を知り、演奏する。 ・コードの基礎知識を学び、演奏に生かす。		○		【知識及び技能】 曲にふさわしい奏法・身体の使い方を考え表現できる 【思考力、判断力、表現力等】 ギターの知識・技能を生かしイメージをもって器楽表現の工夫ができる 【学びに向かう力、人間性等】 ペダルによる主体的な活動ができる	○	○	○	5
	B鑑賞 管弦楽曲の鑑賞 【知識及び技能】 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解する 【思考力、判断力、表現力等】 楽器・リズムの特徴を生かした演奏 【学びに向かう力、人間性等】 グループによる主体的な活動	・オーケストラの様々な楽器の音色や響き、またボレロのリズムの繰り返しに乗せた二つの旋律が様々な楽器やその組み合わせによって展開されながらもたらず表現上の効果を理解し、そのよさや美しさを自ら味わって聴く。			○	【知識及び技能】 曲想や表現上の効果と、音楽の構成とのかわりについて理解している 【思考力、判断力、表現力等】 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、構成を覚識し、それらの働きを感じながら、知覚したものと感受したこととの関わりについて考え、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている 【学びに向かう力、人間性等】 オーケストラの様々な楽器の音色や響き、またボレロのリズムに乗せた二つの旋律が展開されながらもたらず表現上の効果に関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組むことができる	○	○	○	6
	A表現 創作 四声体と声の創作 【知識及び技能】 調、音階、和声の理論を活用して4声体の和声作品を創作 【思考力、判断力、表現力等】 創作に関わる知識や技能を生かして創意工夫する 【学びに向かう力、人間性等】 創作活動を楽しみ、主体的に活動する	・コラールなど様々な和声作品を鑑賞する ・和声をもとにした4声体創作の方法を知る			○	【知識及び技能】 変奏曲の基本的なルールを学び、創作に生かす。 【思考力、判断力、表現力等】 創作の知識技能を生かし、創意工夫できる 【学びに向かう力、人間性等】 前向きに創作活動ができる	○	○	○	6
2 学期	A表現 器楽 ギター弾き語り 【知識及び技能】 コードを使用した弾き語り 【思考力、判断力、表現力等】 生き生きとした器楽表現の工夫 【学びに向かう力、人間性等】 グループによる協働的な活動	・簡単なコード練習を行い、「カドハイム」の弾き語りで演奏する。 ・グループでテンポを設定し、聴きあいながら演奏する	○	○		【知識及び技能】 曲にふさわしい奏法・身体の使い方を考え表現できる 【思考力、判断力、表現力等】 ギターの知識・技能を生かし曲のイメージを大切に器楽表現の工夫ができる 【学びに向かう力、人間性等】 グループによる協働的な活動ができる	○	○	○	8
	A表現 歌唱 イタリア歌曲独唱 【知識及び技能】 ソルフェージュ・イタリア語の基礎 【思考力、判断力、表現力等】 イタリア語を生かした表現の工夫 【学びに向かう力、人間性等】 独唱への主体的な活動	・イタリア語の特徴を生かした表現の工夫を行う。 ・独唱ならではの表現の工夫を考え、演奏する。	○		○	【知識及び技能】 曲にふさわしい発声・発音・身体の使い方を考え表現できる 【思考力、判断力、表現力等】 イタリア歌曲の知識を生かしイメージをもって歌唱表現の工夫ができる 【学びに向かう力、人間性等】 独唱への主体的な活動ができる	○	○	○	8
	A表現 歌唱及び器楽（授業内コンサート） 【知識及び技能】 演目楽器決めめ自己プロデュースする 【思考力、判断力、表現力等】 生き生きとした表現の工夫 【学びに向かう力、人間性等】 グループによる協働的な活動	・アンサンブルコンサートに向け、練習計画を立てる。 ・演目に合った、楽器編成や表現を工夫し、演奏を行う。		○		【知識及び技能】 曲にふさわしい奏法・身体の使い方を考え表現できる 【思考力、判断力、表現力等】 楽曲分析を行い、その知識を生かし曲のイメージを大切に表現の工夫ができる 【学びに向かう力、人間性等】 グループによる協働的な活動ができる	○	○	○	12
3 学期	器楽 リコーダー四重奏 【知識及び技能】 グループソルフェージュの魅力味わう 【思考力、判断力、表現力等】 生き生きとした器楽表現の工夫 【学びに向かう力、人間性等】 グループによる協働的な活動	・拍、リズムを感じながら、メンバーを意識しながら演奏を行う。 ・流れを止めず、曲想に合った表現の工夫を行う。		○		【知識及び技能】 曲にふさわしい奏法・身体の使い方を考え表現できる 【思考力、判断力、表現力等】 リコーダーの知識・技能を生かしイメージをもって器楽表現の工夫ができる 【学びに向かう力、人間性等】 グループで協働して、主体的な表現活動ができる	○	○	○	6
	歌唱 ア・カペラ混声合唱 【知識及び技能】 ソルフェージュの基礎 【思考力、判断力、表現力等】 歌唱表現の知識技能を表現の工夫に生かす 【学びに向かう力、人間性等】 グループによる主体的な活動	・ハーモニーが美しく発声に適した曲を使用し、曲想を考えた演奏を目指す。 ・グループ練習を中心とした主体的活動を行う。 ・模範の鑑賞をおしより良い演奏のイメージを持つ	○			【知識及び技能】 曲にふさわしい発声・発音・身体の使い方を考え表現できる 【思考力、判断力、表現力等】 知識を生かしイメージをもって歌唱表現の工夫ができる 【学びに向かう力、人間性等】	○	○	○	6
	創作 自作の和声進行を用いた楽曲の創作 【知識及び技能】 反復、変換、対照などの手法を活用して創作する 【思考力、判断力、表現力等】 創作に関わる知識や技能を生かして創意工夫する 【学びに向かう力、人間性等】 創作活動を楽しみ、主体的に活動する	・自分で創作した和声をもとにした旋律創作の説明を聴き、どのように創作を進めるか確認する ・いくつかの和声進行と旋律の作例を知り、どのようにメロディラインにつなげていくか、例をもとに創作し練習する			○	【知識及び技能】 コード進行の基本的なルールを学び、創作に生かす。 【思考力、判断力、表現力等】 創作の知識技能を生かし、創意工夫できる 【学びに向かう力、人間性等】 前向きに創作活動ができる	○	○	○	6
									合計	70

高等学校 令和8年度（1学年用） 教科 芸術 科目 書道 I

教科： 芸術 科目： 書道 I 単位数： 2 単位
 対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 4 組
 教科担当者： （1 組： 喜入 （2 組： 喜入 （3 組： 喜入 （4 組： 喜入 ） （組： ） （組： ）
 使用教科書： （書 I 光村図書 ）

教科 書道 I の目標：
 【知識及び技能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるよう
 【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。
 【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書の表現方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけるようにする。	書の美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようになる。	主体的に幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			漢 仮	漢	仮 賞					
1 学 期	・書道の三分野と、臨書・鑑賞・創作の学習方法を理解する。 ・小・中学校国語科書写と高等学校芸術科書道の学習の違いを確認する。	書道で学習すること・書写から書道へ	○	○	○	書道の分野や書道で学習すること、小・中学校の国語科書写で学習した内容を理解している。	○	○	○	2
	・日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、漢字の書体の変遷、各書体に特有の字形や線質の特徴について理解する。 ・漢字の古典の価値と根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。 ・漢字の書体の変遷や、その背景にある歴史や文化に関心をもつ	漢字の変遷と様々な書体		○	○	漢字には五つの書体があることを理解する。それぞれの書体の成立過程と、その歴史的背景、字形や線質の特徴を理解する	○	○	○	4
	楷書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につける。臨書作品の制作	唐の四大家に学ぶ楷書の基本 孔子廟堂碑 九成宮醴泉銘 雁塔聖教序 顔氏家廟碑。 牛嶽造像記 卷末折込龍門二十品 古典の臨書		○	○	楷書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 楷書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。構成を考えながら臨書作品の創作ができる。	○	○	○	10
2 学 期	行書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。 行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につける。 仮名漢字の伝来から仮名の成立に至る過程で段階的に発生した仮名の種類を理解する。	文字の造形を学ぶ【行書】 蘭亭序 蘭亭序とは 受け継がれてきた蘭亭序 卷末折込「蘭亭序」 [コラム] 印でわかる古典の真価 争坐位文稿 風信帖 三筆・三跡の書 仮名の成立と種類		○	○	行書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 行書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。主体的に漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 仮名の線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。	○	○	○	20
	仮名の字源の理解と古典に基づいた用筆を理解する	文字の造形を学ぶ仮名 仮名の筆使い 平仮名 変体仮名 蓬萊切		○	○	仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質や字形を生かした表現をするための技能を身につけている。 主体的に仮名の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	8
3 学 期	漢字仮名交じりの書の特徴を理解する。漢字仮名交じりの書の作例を鑑賞し、漢字と仮名の調和や自由な紙面構成などの表現の特徴を確認する。②書く言葉を決め、表現のイメージを明確にもつ。 ③古典や古筆の学習を通して習得した知識・技能を生かし、書体・書風、紙面構成、用具・用材などの観点で作品の構想を練る。 ④試作を重ね、表現を工夫し、落款を入れて作品を仕上げる。 ⑤作品を鑑賞し合い、学習の成果を交流する。	漢字仮名交じりの書とは 心に響く言葉を書く 創作する 好きな言葉を書こう あなたは、どの書が好き？ 表現の幅を広げよう	○		○	漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫している。 創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	10
										合計